

# 品川支部

令和二年8月1日発行

〒141-0022

品川区東五反田1-8-5

TEL 3442-7075

## 8月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

## この時期はいつもならおちばが 子供の声で賑わう時ですが

今年はおリンピック・パラリンピックも延期、楽しみにしていた一年に一回の友達の出会いも限定的、全くなんてこったと言うところですが、まさに『後々の話の種になるほどに』と言われるように、この時をどう過ごしたかと語ることが出来るよう過ごすことに致しましょう。周りには病禍に、災害に苦しみ恐れる方も多くおいでで、直接何も出来なくても何か人の役に立ちたいと思う心で行動すれば意味ある時間を過ごした事になると思います。もう少しの我慢と頑張りです



\*子供おちば帰りホームページから

### やけに懐かしい 例年の子供おちば帰り風景

## ☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

八月九日（日）午後6時〜

場所 都南分教会

尚、会場は今月まで都南さん、九月から時間は同じですが、当面会場を櫻京さんに移しての幹事会になりますのでお知らせ致します

・支部例会

予定では、七月は水豊田さんでの例会でしたがコロナ禍、感染者数の増加により中止させて頂きました

今月は三十日本大崎さん（二頁参照）会場になります。連絡は各教会に二十日以降に致しますので宜しくお願い致します

・教区ひのきしん

支部外の活動は  
今月もお休みです

・神名流し

・在宅センターひのきしん

・スケジュール関連

教区では、七月は感染者数増加にて主事会のみで、全体会議は有りませんでした  
又、本部月次祭はおちば近隣の教会から徐々に参拝禁止が解除されつつ有ります  
修養科、講習等も復活されました

## ☆夏の少年会行事のお知らせ

期間 八月の土日祝日開催

八・九・十日、  
十五・十六日、  
二十二・二十三日

いずれも午前10時〜11時半  
午後一時〜三時

場所 西回廊  
南右二棟内と北側広場

内容 伏せ込み行事 回廊ひのきしん

お楽しみ行事

リトルマガジンワールド

クイズラリー

やかた講話アニメーション

道の子作品展は十月まで常設  
水を使った遊び（北広場）

右記の内容で夏休み、少年会員と共に  
お帰りになる方へ、会員が楽しめる様  
少年会本部からの企画ですので、ご家族揃ってお出かけください  
尚、コロナ禍の中、やむなく中止する  
場合もあるかと思いますがご了承頂  
きますようお願い致します

拠点教会	2日号	9日号	16日号	23日号
日本橋	直送	16日に合併	直送	直送
本荏	直送	16日に合併	直送	直送
都南	直送	16日に合併	直送	直送
三ツ木	直送	16日に合併	直送	直送
水豊田	直送	16日に合併	直送	直送

時報手配り八月予定

# 品川支部例会

(状況により変更あり)

## 令和二年8月30日 (日) 11時開始

### 場所 本大崎分教会

(品川区大崎三丁目17-3)

### 内容 おつとめ よろづよ八首 八下り 目 東京教区、支部連絡事項 当該教会長三輪先生 挨拶 昼食の用意頂いてます

**\*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)**



#### あるTV番組から



新型コロナウイルス(以降コロナ)感染症を信仰的にいかに考えるかについては、皆さんも色々と思案をされていることと思います。先日あるテレビ番組を観て、なるほどと思うことがありました。この番組では、人体の免疫とコロナの戦いを分かりやすく解説していました。人体には様々な免疫機能があるのですが、まず、空気を肺に吸い込む気道には細かい繊毛が生えていて、異物を外へ外へと送り侵入を防ぎます。しかしコロナはこれを巧みにすり抜け、肺の奥深くの細胞まで到達してしまします。細胞には本来栄養のみを取り込めるよう、鍵穴のような機能の突起物がありますが、コロナは偽の鍵を保持しており、だまして簡単に細胞内へ侵入してしまします。

そしてどんどん増殖し、他の細胞へと感染を広げていくのです。しかし、細胞もただやられるわけではありません。警報物質を大量に放出し、血流に流して事態を知らせ、受けた免疫細胞は直ちに現場へ向かい、ウイルスをどんどん食べてくれるのです。ですがコロナには、この警報物質の放出を少なくさせる機能があり、これが働くことで免疫細胞が出動できず、ウイルスが増え、人体が重症化してしまいます。しかし免疫細胞は、今度は捕食したウイルスから情報を入手し、コロナ専門のキラー細胞となったり、大量の抗体を放出してウイルスの動きを封じ込めたりします。また時には自己犠牲となり、免疫細胞内のDNAを放出してウイルスを絡め捕る行動をとったりもします。ウイルスを全て撃退した後も、こうした免疫細胞は、ウイルスの情報を保ったまま、再び侵入してくる時のために待機しているそうです。

こうして生物の誕生以来、ウイルスとの知恵比べの進化が続いているそうです。番組では栄養や運動による体調管理が大切とのことでしたが、私はそれ以上に、心遣いの大切さを感じました。これらの働きは、正道の上で私達が手本とするものばかりです。素直によく動き、人(人体)のために一生懸命尽くす。何か異変が起こったら、それをすぐに周囲へ伝える。必要な時は自分のことを置いてすぐに動く。協力する。大変でも慌てず慎重に確認して対処する。それでも解決しなければ、よく研究して解決策を練り、いい案がみつければ、それを瞬時に仲間へ伝える。時には自分が犠牲になって人もをたすける。事態が収束しても、再来に備え見守る。これらは絵に描いたように親神様が望む心遣いばかりです。一方コロナのすることは、隠れて悪いことをする。だます。ずるをする。横取りする。楽しんで得ようとす

欲しいものはいくらでも取ると、こちらは私達のほこり心そのものなのです。そして結局は相手を死に至らしめ、自らも滅びます。「病の元は心から」と教えて頂く通りで、私達がどういう心を使えばどんなお働きを頂けるかということ、親神様はミクロの世界でもはつきりと表してくださっているのです。体内では親神様に十分に働いて頂きたいが、自分は好きなようにしたいのでは、虫が良すぎなのです。この節を通して親神様は、私達の心の使い方を芯から問われ、成人を促しておられるように思います。最後に、この肺炎の恐ろしい症状として、免疫のチームワークが乱れて暴走し、その多くの死骸で血栓ができ、患者が死に至ることがあるそうです。これは家族など、周囲との協調の大切さを教えて頂いている気が致します。

日本橋大教会長  
中臺健児